

## 4 家庭教育支援者に求められること

## 家庭教育支援者に求められるもの

家庭教育は親子という私的な関係を通じて行われると見られがちですが、同時に社会の形成者としての子どもを教育するという側面もあります。

このため、家庭教育を個々の家庭の努力のみに委ねることなく、担い手である親が学んでいくことを社会として支えていくことが必要です。

親の学びや育ちを応援することが、家庭教育支援の基本です。

ここでは、第2章および第3章を踏まえ、よりよい家庭教育支援者（以下「支援者」）になるために、心得ておきたいことや支援にあたって気をつけたいことなどを具体的に確認します。

### (1) 支援者として心得ておきたいこと

#### ○ 支援者は伴走者です。

子育てには不安や心配がつきものです。子育て中は、どうしてもマイナスの感情が出てきてしまいます。親が支援者と関わってよかったと思えるよう、ポジティブな感情にもネガティブな感情にも寄り添いながら、一緒に子育てに取り組んでいこうとする姿勢が大切です。

#### ○ 支援者も共に学ぶ人です。

支援者の役目は、参加者がなにをして欲しいのかを考え、参加者と共に力を合わせることにあります。家庭教育に「こうでなくてはならない」という答えはありません。支援者も参加者も共に学ぶ姿勢をもち、お互いに学び合うことが大切です。

#### ○ 支援者は学びをサポートする人です。

支援者の役目は、参加者が話しやすい雰囲気をつくり、参加者同士が互いに学び合えるようにサポートすることです。参加者ひとりひとりのよいところを見つけ、互いの思いに気づき合うよう手助けすることで、一層学びが深まります。

#### ○ 支援者はつながりをつくる人です。

支援者の役目は参加者同士が知り合い、講座等が終わっても参加者が連絡を取り合い、互いにサポートできるよう手助けすることです。



○ **支援者も参加者のひとりです。**

支援者は、参加者が体験から学べるようにサポートしますが、親が完璧ではないように、すべてを正しく行うことのできる支援者はいません。支援者も参加者との活動の場のなかで多くを学ぶことができます。

○ **支援者もつながりが大切です。**

いくら思いがあっても支援者がひとりで活動するには限界があります。同じ志をもつ仲間や子育て経験者、PTA関係者、身近な住民等とつながりながら、学校や幼・保・子ども園、各施設、団体等との連携を深め、地域全体で支援することが大切です。

○ **関係機関等へつなぐことも必要です。**

支援者は専門家ではありません。多様化する親の不安や悩みに対して、すべて自分で解決しようと思わず、必要な支援が可能と思われる団体・専門機関等を紹介することも必要です。

## **(2) 支援にあたって気をつけたいこと**

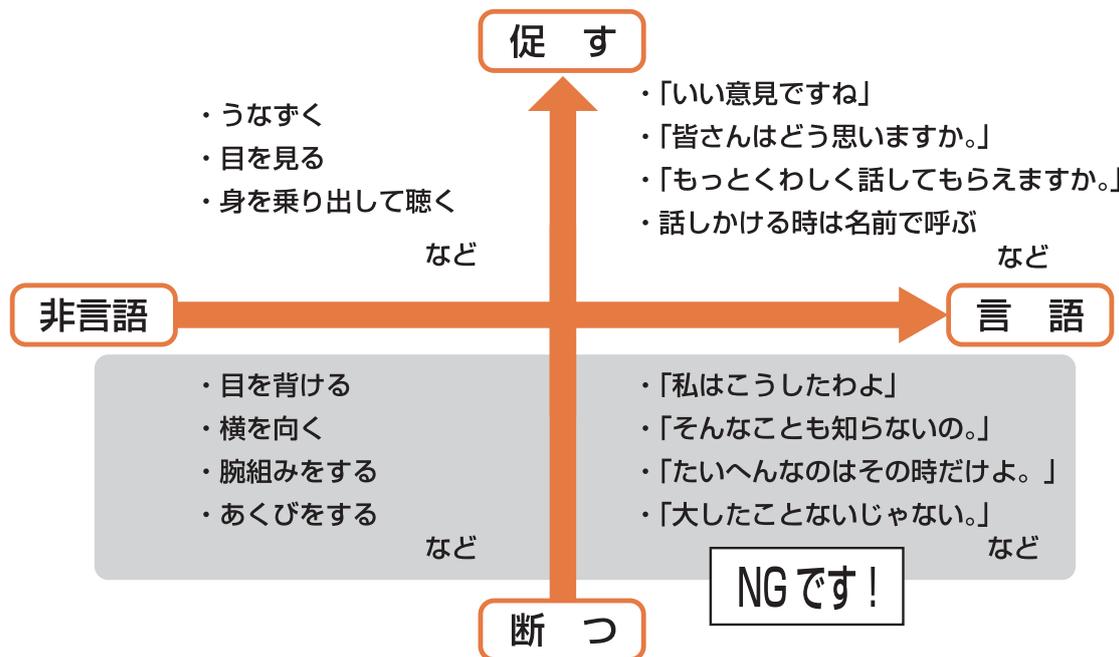
ひとりひとりの価値観はそれぞれ異なり、まったく同じということはありません。グループや集団のなかには幅広い価値観が存在しますが、自分や誰かの価値観を他人に押しつけることがないように気をつけることが大切です。支援者はあくまで中立を保ち、参加者ひとりひとりの考え方や価値観が尊重されるように努めましょう。

### **ア 聴くとき・話すとき**

○ **支援者は積極的に聴く。**

支援者は積極的に聴くことが大切であり、参加者の内側にある感情も含めた気持ちに耳を傾け、寄り添うということです。批判やアドバイスはせず、うなずいたり、参加者の気持ちをそのまま言葉にするなどして、積極的に聴いていることを態度で示すことも大切です。支援者が積極的に聴くことで参加者は肯定的に自己評価できるようになります。また、支援者が積極的に聴いていることが伝わると参加者同士が互いの発言を尊重するようになります。

## <よりよいコミュニケーションのために>



### ○ 相手の状況に応じて対応する。

支援者の役割の大半は聴くことであって話すことは重要ではありません。支援者が話しすぎると相手が自分の意見や気持ちを話せなくなります。また、つかう言葉に気をつけ、相手に馴染みのあるような言葉をつかいましょう。

### イ 講座・子育てサークル等の運営場面

#### ○ 学びの場の雰囲気づくりをこころがける。

受付時に参加者ひとりひとりに挨拶をすることや早く来た参加者と会話をする、机の配置に配慮するなど、あたたかく歓迎されているということが感じられるような学びの場の雰囲気をつくることは、支援者の役割です。また、リラックスした雰囲気はそのまま発言に反映されますので、笑いがあることも重要です。

#### ○ 安心の場であることを約束する。

ワークショップや話し合い、相談を受ける場合などで大切なこととしては、運営者と参加者間、または参加者同士が、この場所で安心して話ができるという確認ができ、そこで知り得た個人に関わる情報などは、支援者はもちろん参加者も外に漏らさないという約束が必要です。

※『ワークショップ』とは、体験型の講座やグループ学習のことです。

○ **参加しやすい開催方法を工夫する。**

労働形態が一層多様化している現代社会において、親が従来型の講座・研修会に参加しにくい状況が考えられるため、講座・研修会等の開催にあたっては、多忙な親が参加しやすいように、内容や場所、時間等の工夫が求められます。そのひとつとして、オンラインを用いた学習プログラムは、有効な手立てとして考えられます。

○ **充実した学びの場にする。**

参加者のなかにはワークショップ等への参加が不慣れであり、なかなか発言できない人もいます。そのような参加者もなにも考えていないわけではありません。大切なことは、参加者の発言を尊重し、受け入れられていることを実感してもらい、参加者が自分の価値観を振り返る機会を提供することで、支援者が教えるのではなく『参加者が気づくこと』です。

参加者が主体的に参加するためには、参加者が興味をもち、積極的に発言できるようなプログラムづくりを心がけます。また、参加者により多くの発言をしてもらうためにグループ活動も取り入れ、個々の発言を確保することも必要です。

○ **参加者へ柔軟に対応する。**

よりよい学びの場にするために、綿密なプログラムを作成することが大切ですが、参加者には柔軟に対応することが必要です。参加者の様子を見て計画を変更できるようにしておかななくてはなりません。



### **(3) 支援者としての力量形成に努める**

支援を必要とする親に学びの機会を提供することや、親が気軽に相談できる「場」をコーディネートし、しっかりと受け止めるなどの力量が求められます。そのため、支援者としての必要な基本的知識、ノウハウを身につけていくことはとても重要です。

#### **ア 親の悩みや不安への対応**

子育てで悩んだ時に話を聞いてもらえる存在がいるだけで、なにか悩んだらそこにいけばよいという親の安心感につながります。講座や研修会などの交流を通して、互いに「顔見知り」から「挨拶・世間話をする間柄」、さらには「悩みごとを打ち明け、相談する間柄」へと信頼関係が深まっていきます。支援を必要とする親が、不安や悩みを安心して相談できるよ

うになるために、お互いの信頼関係を築くための力量を高めていくことが大切です。

また、子どもの発達障がいなどの専門的な知識や経験を要する相談に関わることが今後考えられますが、21ページでも説明しているとおり、支援者は専門家ではありません。対応に困った場合は、専門機関等を紹介するなど、無理のない対応をしましょう。

## イ 多様な情報発信・提供のための知識や技術の習得

第3章「今後の家庭教育支援の在り方」の(2)「新しい家庭教育支援の普及啓発・学習機会の方向性」(P16)でも説明していますが、共働き等、参加したくても参加できない親に講座や研修会等の様子を伝える方法として、チラシやパンフレットの作成、ウェブサイトやブログ、SNS、アプリの活用など様々な手段で情報を発信することは有効な取組です。多様な手段で情報発信するための知識や技術を身につけることで活動の幅が広がります。

## ウ 講座や研修会等の積極的な活用

支援者に関係すると考えられる知識やノウハウとして、たとえば以下のようなものが考えられます。基本的な知識、ノウハウの取得には、県主催の講座や県が作成した学習プログラムの活用も効果的です。

	基本的知識 (例)	県主催講座等
家庭、家庭教育支援に関すること	家庭を取り巻く課題など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あおもり家庭教育アドバイザー」の養成およびスキルアップ講座</li> <li>・あおもり親楽プログラム</li> </ul>
子どもに関すること	子どもの成長・発達に関すること	
保護者の学習機会に関すること	ワークショップの手法など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あおもり家庭教育応援フェスタ</li> <li>・家庭を支える連携・協働セミナー</li> <li>・青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会</li> <li>・祖父母向け孫育て研修会</li> <li>・読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成</li> <li>・あおもり子育てネット(家庭教育支援動画等)</li> </ul>
地域に関すること	情報収集・ネットワークづくりなど	
そのほか	生活習慣づくりに関することなど	

県では、家庭教育支援に関する専門的な知識や実践的な技術を習得する講座、現代的な課題にも対応できる力を身につける講座など、様々な研修を実施しています。県が実施する研修等を活用しながら、支援者としての資質向上を図っていくことをおすすめします。講座や研修会等に参加することで、支援者同士のつながりが生まれ、日頃の悩みを気軽に相談し合える関係を築く良い機会となります。

また、県教育委員会には、支援者を見守り、支援する存在として社会教育主事があります。講座や研修会等の問い合わせ、家庭教育支援に関わる相談等がある場合は、お気軽に御連絡ください。

(連絡先などは、巻末を御覧ください。)

